

■単元名(題材名)

数の表し方やしくみを調べよう

■学習の流れ

①数の仕組みに着目して端数部分の大きさの表し方を考える。

②端数部分の水かさの表し方などの適応問題に取り組む。

③端数部分の水かさの表し方に着目して長さの端数部分の表し方を考える。

④1目盛りの大きさに着目して小数を数直線に表す方法を考える。

⑤数の仕組みに着目して小数の位やその数字の意味、大きさを考える。

⑥小数の相対的な大きさや数の構成に着目して小数の大小関係を考える。

⑦数の仕組みに着目して小数の加法の計算方法を考える。

⑧数の仕組みに着目して小数の減法の計算方法を考える。

⑨数の仕組みや整数の筆算に着目して小数の加減法の筆算の仕方を考える。

本時
⑩小数の仕組みや数の構成に着目して小数の多様な見方や表し方を考える。

⑪学習内容の生活への活用を考える。

⑫学習内容の習熟・定着、数学的な見方・考え方の振り返る。

■本時のねらい

小数の表し方やしくみについて、2.8mと280cmは同じであることをもとに、小数と整数を比較して共通点を見いだしたり、数直線から式に表したりする活動を通して、小数の表し方やしくみが整数と同じであることを説明できるようにする。

■主なICT活用の場面



はじめに、2.8mと280cmは同じであることを、数直線を貼り付けたスライドを使って確認した。280に着目させ、既習となる整数のしくみについて考えさせた。

次に、小数(2.8)は整数のしくみと同じ見方ができるかを考えさせた。その際、デジタルホワイトボードソフトの数直線を活用して、自分の考えを表現させると共に、班で考えを共有するようにした。その後、クラス全体で意見交流し、数の共通点を確認し、本時のまとめにつなげていった。

自分の考えを持っていない児童も、ICTを利用して数直線を使いながら班で話し合う活動を通して、考えをもつことができていた。

今後、お互いの数直線を見比べながら、児童自らが共通点に気付くようなICT活用を行っていきたい。

■活用したソフト等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト、アンケートフォーム

■単元名(題材名)

武士による政治の安定

■学習の流れ

【単元の課題】 江戸時代が260年以上も長く続いたのはなぜか。

本時

大名行列について調べ、その目的について考える。

江戸幕府が行った政策の目的について考える。

江戸幕府の身分制について調べ、その目的について考える。

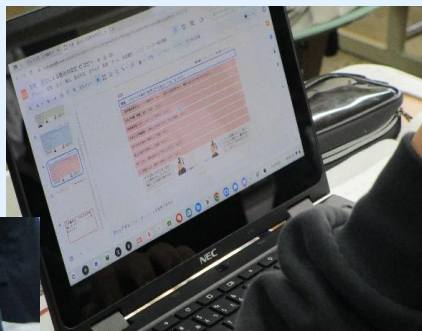
江戸幕府と外国との関わりについて調べ、鎖国を行った理由について考える。

鎖国後の江戸幕府と外国との関わりについて調べ、これまでの学習を振り返り、江戸幕府が長く安定した理由を考える。

■本時のねらい

江戸幕府の政策について、資料から読み取った各政策の内容の共通点を見いだして分類し、その内容を交流する活動を通して、江戸幕府の政策の目的を自分の言葉でまとめることができるようにする。

■主なICT活用の場面



前時で調べた幕府の政策を、アンケートフォームで確認した。そして、教科書、資料集、学習支援アプリにある資料から、江戸幕府が行った政策とその内容について、まず、個人でスライドにまとめる活動を行った。その際、支援を要する児童に対しては、スライドのコメント機能で、幕府の目的に関わる視点を提示した。

次に、班で各政策のねらいの共通点を考えながら、各個人のスライドを1枚にまとめ、最後に、各班のスライドをクラス全体で交流しながら、幕府の目的について本時のまとめを行った。

ICT活用で授業改善を図ってきたことで、自分の考えをスムーズに入力できる児童が増えた。

本時では、教師が意図した分類→まとめの流れにならず、児童はまとめを先に考えていた。今後は、授業構成を工夫し、児童の思考の流れに沿いながら、より思考の深まるICTの効果的な活用を検討していきたい。

■活用したソフト等

デジタル教科書、学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト、アンケートフォーム

■単元名(題材名)

おまつりの音楽をつくろう

■学習の流れ

「村まつり」の歌唱を行う。

「日本のたいこ」を聴き、気付いたことや感じたことを話し合う。

お祭りの音楽がもつ特徴について、ICTを活用してまとめる。

本時

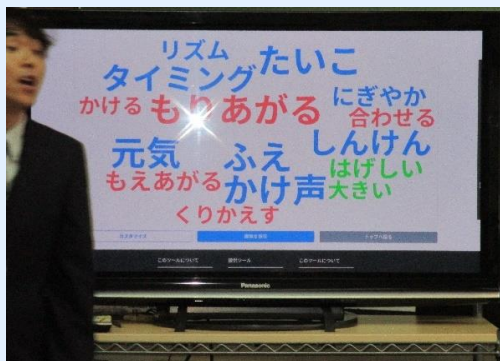
リズムカードを組合せて、お祭りの音楽(4小節)をつくる。

作ったリズムカードをつなげて、グループで一つの音楽をつくる。

■本時のねらい

自分がつくりたいお祭りの音楽について、前時までの活動で得た気付きをもとに、クロームブックを使ってリズムカードを組合わせたり、つくった音楽(リズム)をペアでつなげてリズム打ちをしたりする活動を通して、思いをもって音楽づくりをすることができるようにする。

■主なICT活用の場面



前時の段階で、児童が気付いたお祭りの音楽の特徴を意見集約サイトで集計し、提示した。その内容をもとに、お祭りの太鼓のリズムをつくらせる活動に取り組んだ。

デジタルホワイトボードソフトでリズムカードを組み合わせ、4小節のお祭りの音楽をつくらせた。口歌唱によって、つくった音楽(リズム)を練習させた後、ペアでリズムを共有し、8小節のリズム打ちを行った。

ジャムボードは共同作業ができるので、ペアで音楽をつくることができた。太鼓の絵、紙のばちの使用も効果的で、デジタルとアナログが融合していた。せっかく考えたけれど自分がたたけないので、簡単なリズムに変えた児童がいた。児童の困りの部分をどう拾っていくか手だてを考えていきたい。

■活用したソフト等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト、アンケートフォーム、意見集約サイト

■単元名(題材名)

「ショートショート」を書こう

■学習の流れ

ショートショートのイメージと学習の見通しを持つ。

言葉を、組み合わせ、想像を広げる。

自由に作った「不思議な言葉」を友だちと紹介・構成し合う。

本時

印象的な結末を迎える物語の書き方を例文をもとに考える。

相手や目的を意識して、場面設定や展開を考えながら書く。

場面の様子や会話文などを加えて、段落を意識して書く。

友だちの作品の良いところやアイデアを見つけながら読む。

■本時のねらい

印象的な結末にするには、物語をどのような構成にすればよいか考えた、アイデアの中から適した内容を選んだり、例文を参考に並べたりする活動を通して、自分のショートショートの構成を考えることができるようにする。

■主なICT活用の場面

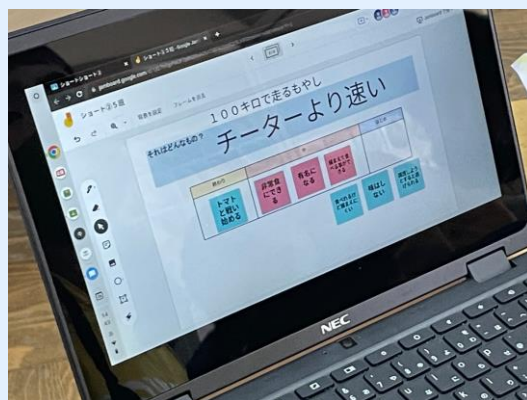


文の構成を考える活動でデジタル付箋を活用

2つの例文をもとに、どちらが印象的な物語になるかを考えさせ、その理由について、デジタル付箋を活用して意見交流を行った。

その後、印象的な物語となるように、デジタル付箋を活用して自分のショートショートの構成を考えさせた。その際、他の児童の考えも参考にさせた。

デジタル付箋は、移動や修正が容易にできるので、文の構成を考える活動において有効であった。



■活用したアプリ等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト(デジタル付箋)

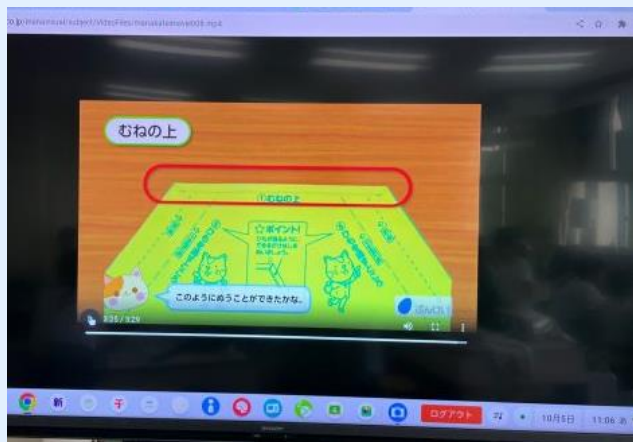
■単元名(題材名)

手作りで快適な生活

■本時のねらい

生活に役立つ物の製作について、製作工程やミシンの使い方を動画で繰り返し確認させることを通して、効率よく安全・適切に製作できるようにする。

■主なICT活用場面



エプロン制作に関する動画を活用し、製作に必要な手順やミシンの使い方を確認させた。その後、ミシンの練習に取り組んだ。

動画を活用することで、製作の手順やミシンの使い方について、児童が繰り返し確認することができるので、製作活動をスムーズに進めることができた。

また、動画の内容をもとにして、グループで協力しながら製作を進めることができていた。製作活動において、動画の活用は有効であった。

■活用したソフト等

学習支援ソフト、動画

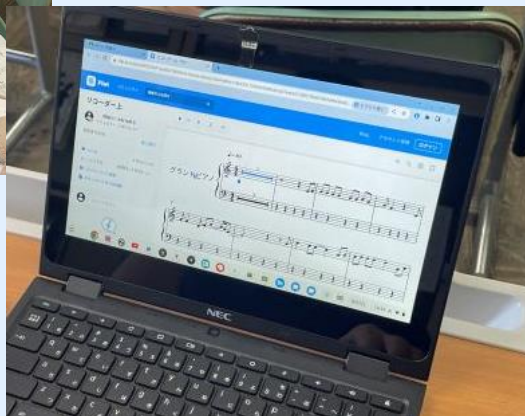
■単元名(題材名)

気持ちを合わせて演奏しよう

■本時のねらい

学年合奏について、曲の全体像を動画視聴で確認した後にデジタルで表示された楽譜やその再生機能を使って、繰り返し練習を行う活動を通して、音を合わせて演奏することができるようにする。

■主なICT活用場面



授業の導入場面において、音を合わせて演奏するために、動画で曲の全体像をつかませた。その後、音楽ソフトの楽譜を使ってパート練習させ、パート練習の進行状況をデジタルホワイトボードソフトで記録させた。

デジタル化された楽譜には再生機能があり、児童が楽器を選び、繰り返し練習することができる。

また、パートごとの楽譜を学習支援ソフトに載せることで、楽譜を簡単に拡大でき、必要な部分を見やすくすることもできた。

音楽ソフトやデジタルの楽譜を活用にしたことによって、児童の演奏の改善につながった。

■活用したソフト等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト、音楽ソフト(Flat)、動画サイト

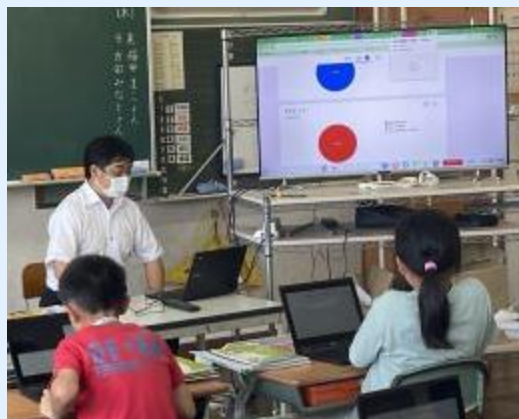
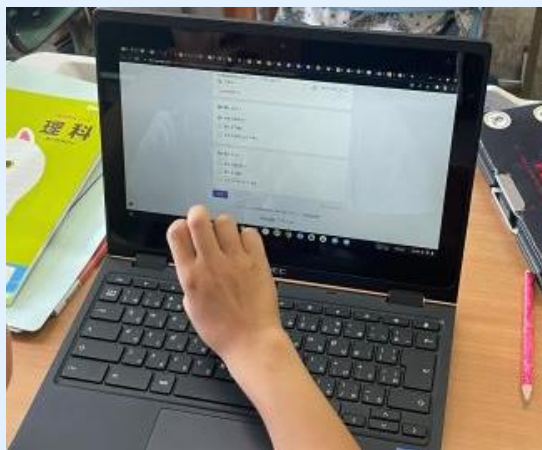
■単元名(題材名)

ものを動かす風

■本時のねらい

風の力について、風の強さを変化させて帆掛け車を動かす実験を通して、風の強さを変化させると、物が動く様子も変わること理解できるようにする。

■主なICT活用場面



実験結果の予想を立てる場面で、アンケートフォームに個人の予想を入力させ、その結果をグラフで表示した。その後、自分の予想の根拠について発表させ、クラス全体で共有した。

アンケートフォームは、瞬時に回答結果を可視化できるので、子どもの考えを広げたり、深めたりする学習活動につなぐツールとして有効であった。

また、実験方法の説明の際に、デジタル教科書の動画を活用した。実験の見通しや注意点等について、効率的に確認させることができた。

■活用したソフト等

デジタル教科書, アンケートフォーム

■単元名(題材名)

おはなしがたわむるようによもう「おおきなかぶ」

■本時のねらい

場面の様子について、繰り返しの展開を楽しみながら、登場人物の行動を中心に想像を広げて読むことを通して、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができるようにする。

■主なICT活用の場面



撮影した動画を音読の練習に活用

登場人物が、かぶを引っ張る様子や、抜けない時にどんなことを話し合ったか想像し、劇化する活動の中で、練習の様子をカメラで動画撮影し、自分の演じる様子を確認させた。

授業者が指摘するだけではなく、自分の様子を動画で確認することにより、子どもたちは、主体的に自分や仲間の音読の改善点を考え、工夫につなげることができていた。

音読の気になる場面のみ、動画を繰り返し撮影し、改善させていくことも効果的であると思う。

■活用したソフト等

カメラソフト

■単元名(題材名)

おもちゃの説明書を書こう

■本時のねらい

工作したおもちゃの「紙皿ヨーヨー」の作成手順について、デジタルホワイトボードソフト活用して1年生に分かりやすいよう、写真や文字を入れて説明書を作る活動を通して、簡単な構成を考えることができるようにする。

■主なICT活用の場面

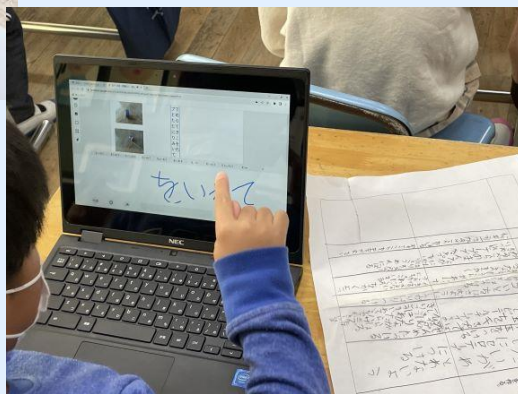


事柄の順序に沿って構成を考える活動においてデジタル付箋を活用

1年生に「紙皿ヨーヨー」の作成手順が分かりやすく伝わるように、デジタルホワイトボードソフトを活用して、文字や写真を工夫し、説明書を作成させた。

その際、説明の順序を確認させたり、自分の思いや考えに合わせた写真を撮影させたりし、構成を考えさせた。

前回の授業で、デジタルホワイトボードソフトを活用していたので、手書きによる文字入力や写真の挿入などに時間はかからず、スムーズに取り組むことができた。



■活用したソフト等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト

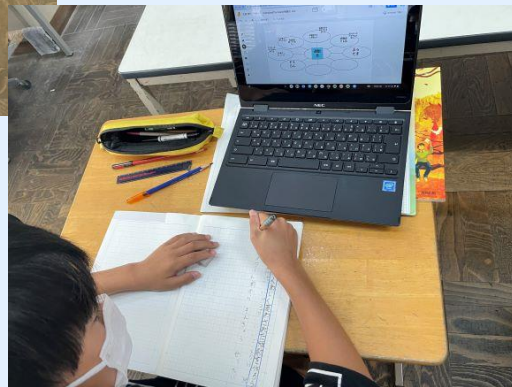
■単元名(題材名)

ぴったりの言葉を見つけて短歌をつくろう

■本時のねらい

自分のテーマに基づいた短歌にするために、言葉をデジタル付箋に記入し、集めた言葉を整理する活動を通して、効果的な表現などを判断しながら書き表し方を工夫することができるようにする。

■主なICT活用場面



言葉を整理する活動においてデジタル付箋を活用

自分のテーマに基づいた短歌を作るために、デジタルホワイトボードソフトの思考ツール(イメージマップ)に言葉を入力し、集めた言葉を整理する活動に取り組んだ。

その後、イメージマップを基にしながら短歌をつくり、書き表し方を工夫した。

PCの画面を見ながら、短歌をノートに書かせ、デジタルとアナログを効果的に活用させることができた。

■活用したソフト等

指導者用デジタル教科書、デジタルホワイトボードソフト(デジタル付箋)

■単元名(題材名)

「私の枕草子」を書いて思いを伝えよう

■本時のねらい

自分が季節感を強く感じた場面について、関連することばを集め、集めたことばを分類したり、関係付けたりすることを通して伝えたい思いを明確にできるようにする。

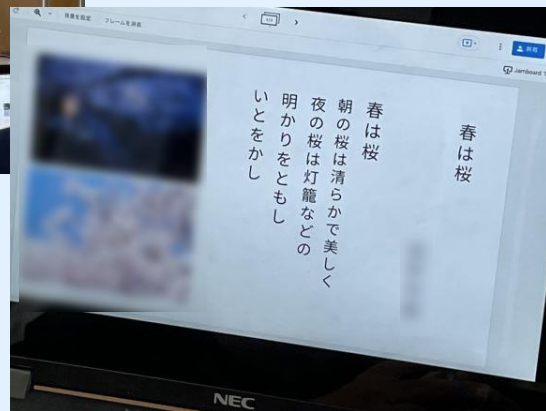
■主なICT活用場面



簡潔な表現で文章を書く活動でデジタル付箋を活用

季節感を感じた場面について、簡潔な表現で文章を書く活動に取り組んだ。わかりやすく伝えるための工夫について、「枕草子」を参考にさせた。

指導者がデジタルホワイトボードソフトで作ったフォーマットを配付し、自分なりの枕草子を書かせた後に発表させクラス全体で意見を交流した。



■活用したソフト等

指導者用デジタル教科書, デジタルホワイトボードソフト(デジタル付箋)

■単元名(題材名)

「さけアルバム」を作って、おうちの人に説明しよう

■本時のねらい

相手に分かりやすく伝えるためには、どのような言葉が必要かについて、考えたり話し合ったりさせることによって、説明文の書き方を理解させ、自分の言葉で説明する文を書くことができるようにする。

■主なICT活用の場面



説明に必要な言葉を書き出す活動でデジタル付箋を活用

さけが大きくなる様子を説明する文を書く活動において、「おうちの人に分かりやすく伝えるために、どのような言葉を入れるとよいか」という課題を設定した。



その課題解決の活動において、説明に必要な言葉(時, 場所, 大きさや様子)をジャムボードに入力させ、ペアで意見交流した。

■活用したアプリ等

指導者用デジタル教科書, デジタルホワイトボードソフト

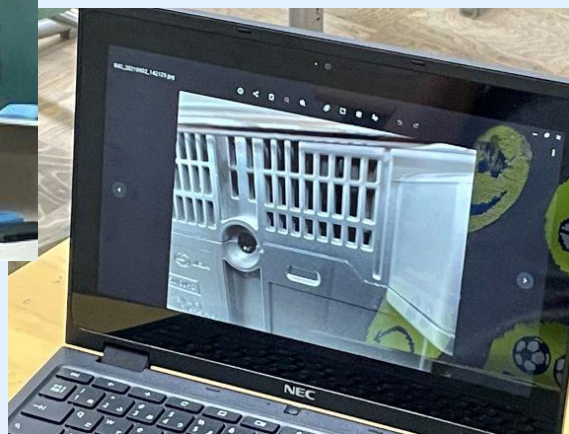
■単元名(題材名)

写真をもとに話そう

■本時のねらい

学校内で撮影した写真をもとに、いちばん伝えたいことをどのようにして伝えたらよいかについて話し合う活動を通して、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができるようにする。

■主なICT活用の場面



子どもたちが撮影した写真を活用

子どもたち一人一人が、学校内の様々な写真をカメラで撮影した。その写真をTVモニターに投影し、クイズ形式でクラス全体に向けて発表し、写真から受け取る印象を交流し合った。

カメラ機能を使うことで、拡大・縮小が容易にできる。子どもたちは発表したい内容に適切な資料を提示し、それをもとに話の構成を考えて発表することができた。

■活用したアプリ等

カメラ機能, TVモニター

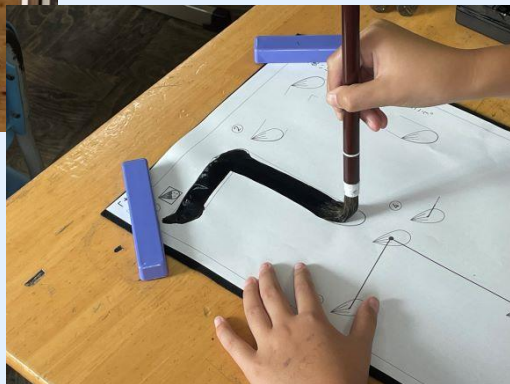
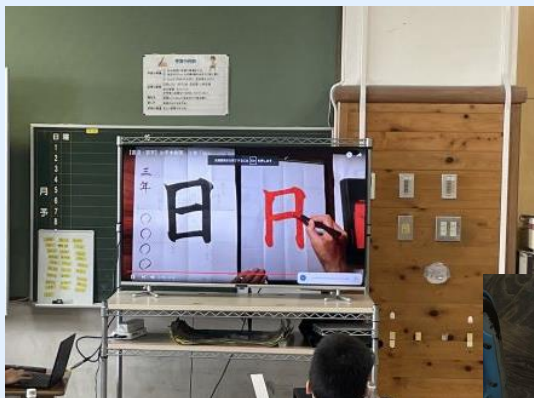
■単元名(題材名)

漢字の筆使い「折れ」を正しく書こう

■本時のねらい

漢字の筆使いについて、日の字を練習する活動を通して、「折れ」の書き方への理解を深めて書くことができるようにする。

■主なICT活用場面



筆使いの練習に動画を活用

「折れ」の筆使いを上達させるために、日の字を書く動画を繰り返し再生させた。そして、書くポイントが印刷されたプリントを配付し、実際に日の字を書き、「折れ」の書き方を練習した。

動画を繰り返し視聴させることにより、形や筆使いのイメージをもたせ、書き方の理解を深めることができた。また、動画を活用することで、授業者が書写道具を準備・片付けする時間を省くことにより、子どもたちへの個別の指導にあてることができた。

■活用したソフト等

動画

■単元名(題材名)

武士による政治の安定「江戸時代に政治が安定していた理由は何だろうか」

■学習の流れ

江戸時代の武士と幕府の関係を調べよう。

参勤交代のしくみについて調べよう。

百姓や町人と江戸幕府の関係を調べよう。

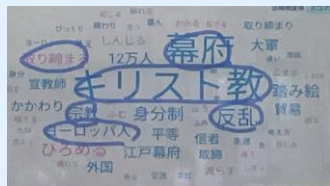
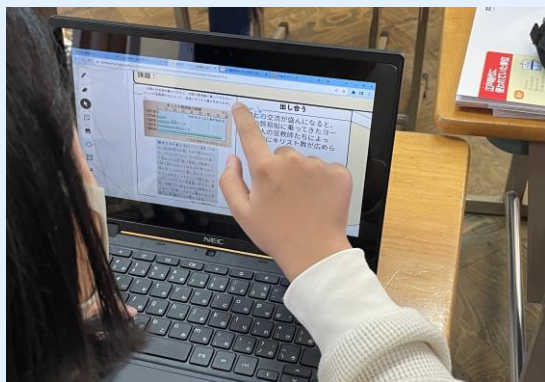
本時
江戸幕府と外国との関係について調べよう。

鎖国後の江戸幕府と外国との交流について調べよう。

■本時のねらい

キリスト教の勢力拡大と鎖国とのかかわりについて、キリスト教徒数の推移に関する資料や取り締まりに関する資料など、異なる資料を読み取り、各資料から読み取った内容を持ち寄って話し合う活動を通して考え、江戸幕府が鎖国を行った理由を自分の言葉でまとめることができるようにする。

■主なICT活用の場面



デジタルホワイトボードソフトを意見交流で活用



デジタルホワイトボードソフトで班ごとに資料を提示し、読み取ったことをデジタル付箋に記入する。

次に、デジタル付箋の内容をもとにして、班で説明し合った後、課題に対する解答を話し合っまとめた。その内容をテキストマイニングで分析し、振り返りをアンケートフォームに記入した。

■活用したソフト等

クラスルーム、デジタル教科書、デジタルホワイトボードソフト、テキストマイニング、アンケートフォーム

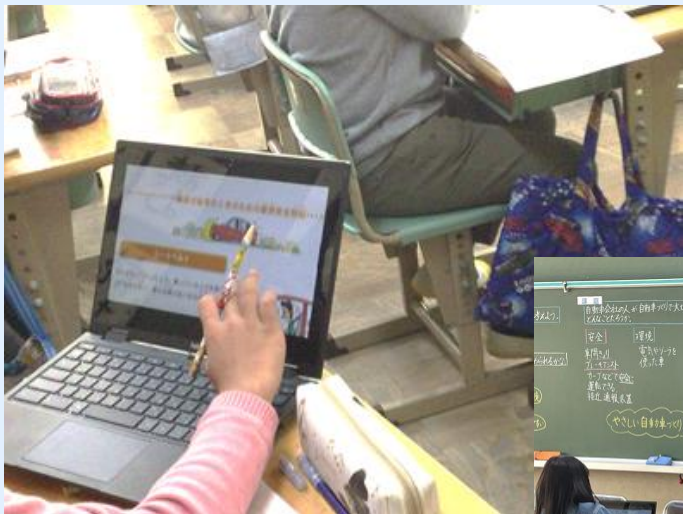
■ 単元名(題材名)

自動車工業のさかんな地域(工業生産とわたしたちの暮らし)

■ 本時のねらい

人に優しい自動車をつくろうという自動車会社の思いを、資料をもとに考えたり、班で考えを交流したりする活動を行うことを通して、自分の言葉でまとめ、表現することができるようにする。

■ 主なICT活用場面



学習支援ソフトで資料を配付し、意見交流の場面でデジタル付箋を活用

学習支援ソフトを使って指導者から送られた複数の資料の中から、自分の予想の根拠となる資料を選択して考察した。



自動車会社の人々が自動車をつくるうえで大切にしていることについて、デジタル付箋を活用し意見交流を行った。デジタルホワイトボードソフトにまとめたものを大型TVに映して発表し、クラスで共有した。

最後に、アンケートフォームで振り返りを行った。

■ 活用したアプリ等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト、アンケートフォーム

■単元名(題材名)

自然災害から人々を守る活動

■本時のねらい

日本各地で起きた災害について、調べる活動を通して、地域の関係機関や人々は、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解させる。

■主なICT活用の場面



動画コンテンツを導入の場面で活用

動画コンテンツを導入時に活用した。動画では、過去に日本各地でおきた災害の具体的な映像が見られ、災害が身近でどこでも起こりうるものだと実感させることができた。

■活用したアプリ等

指導者用デジタル教科書, 動画コンテンツ, TVモニタ

■単元名(題材名)

「たしざん ひきざん」

■学習の流れ

数量の関係に着目し、順序数についての加法や減法の意味と計算の仕方を考える。

数量の関係に着目し、異種の数量についての加法や減法の意味と計算の仕方を考える。

数量の関係に着目し、求大の場合についての加法の意味と計算の仕方を考える。

数量の関係に着目し、求小についての加法の意味と計算の仕方を考える。

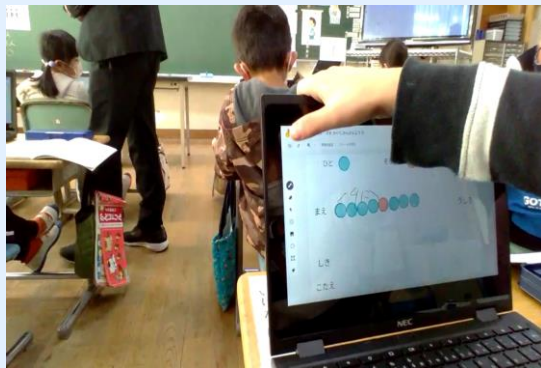
本時

数量の関係を図に表して問題解決の仕方を考え、式や言葉を用いて説明する。

■本時のねらい

問題を解決する過程を、場面の数量関係を丸図で表して正しくとらえて立式し、その根拠を式や言葉を用いて説明することができるようにする。

■主なICT活用の場面



デジタルホワイトボードソフトで問題の内容を図で表し、立式する場面で活用



デジタルホワイトボードソフトを利用し、人の並びを丸図で表現することで、立式の見通しをもたせた。

(前「○○○○●○○」後)

そして、丸図から式をつくり、そのようになった理由をワークシートに書かせた。

その後、ワークシートをもとにペアで説明し合い、クラス全体に向けて発表させた。

■活用したアプリ等

学習支援ソフト、デジタルホワイトボードソフト

■単元名(題材名)

なかまづくりとかず

■本時のねらい

1～5の数の意味と数え方や読み方について、場面絵や具体物と数を関連付けて考えることを通して、理解できるようにする。

■主なICT活用場面



数字の書き方の学習にデジタルコンテンツを活用

1～5の数字の書き方や意味、数え方、よみ方を理解できるように、一人ひとりが書き方を練習する場面や全体で数え方を練習する場面で、デジタル教科書のコンテンツを活用した。

数字の書き方を、デジタルコンテンツを利用して練習した。また、数え方を練習する際には、具体物のイラストを拡大して表示することによって、数え方や読み方の理解を促した。

■活用したソフト等

指導者用デジタル教科書

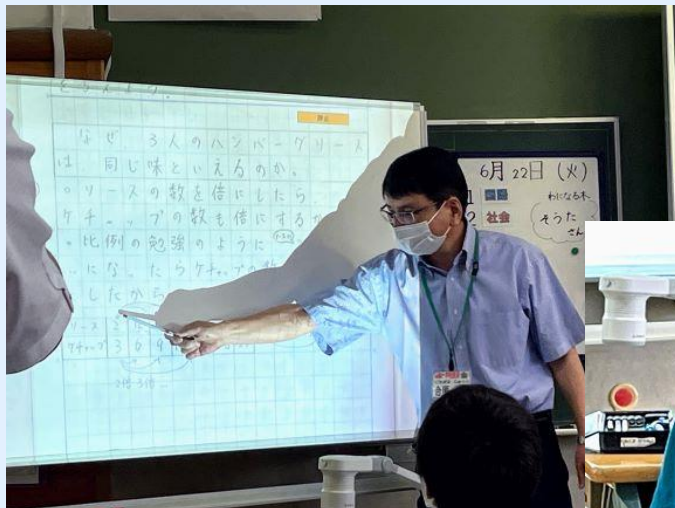
■単元名(題材名)

割合の表し方を調べよう(比)

■本時のねらい

日常の事象における数量の関係に着目し、図や式などを用いて数量の関係の比べ方を考察する活動を通して、比を用いた関係の比べ方を既習の割合と関連づけて統合的にとらえ、割合の適用場面で考え方を工夫できるようにする。

■主なICT活用の場面



問題内容を可視化するためにデジタルホワイトボードソフトを活用

デジタルホワイトボードソフトでケチャップとソースの瓶の絵を1枚ずつ貼り付けたものを学習支援ソフトで児童に配付して、同じ味になる理由を考えさせた。何人かの考えを書画カメラで提示して紹介し、考えを出し合った。



最後に、デジタルドリルを利用し、練習問題に取り組んだ。デジタルホワイトボードに書いた考えを共有し、量の関係について、班で交流した。

■活用したアプリ等

デジタルホワイトボードソフト, デジタルドリル, 書画カメラ, プロジェクタ

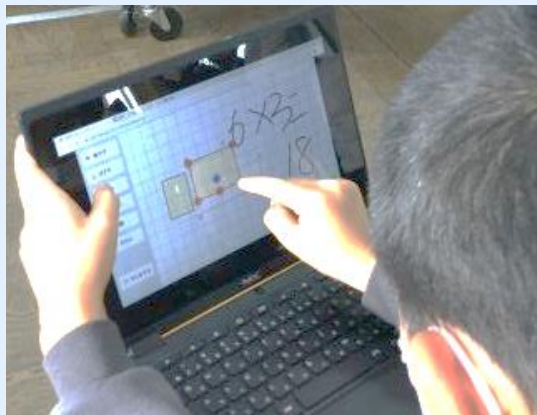
■ 単元名(題材名)

広さの表し方を考えよう

■ 本時のねらい

L字型の形の面積は、長方形の形をもとにして考えれば求められることを、図形を分割したり、補ったり、移動したりすることによって説明できるようにする。

■ 主なICT活用の場面



自分の考えづくりの活動において、デジタルコンテンツを活用

L字型の面積の求め方を考える場面において、デジタル教科書のコンテンツを活用した。

デジタルコンテンツは、図形に線を引いたり、切り貼りしたりする場面で、何度もやり直しができる。子どもたちは図形を動かしながら試行錯誤し、自分の考えをまとめていた。



その後、デジタル付箋を活用し、様々な面積の求め方の共通点について、クラスで意見交流を行った。最後に、アンケートフォームによる振り返り活動に取り組んだ。

■ 活用したアプリ等

デジタルコンテンツ, デジタルホワイトボードソフト(デジタル付箋), アンケートフォーム

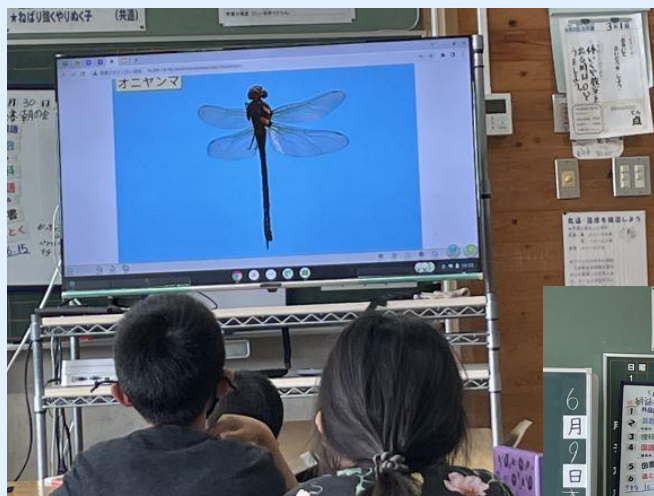
■ 単元名(題材名)

生き物の姿

■ 本時のねらい

昆虫の体のつくりについて、トンボとチョウの体のつくりを調べ、比較する活動を通して、差異点や共通点を基に、昆虫の体のつくりについて問題を見いだすことができるようにする。

■ 主なICT活用場面



昆虫の体のつくりを調べる活動でデジタルコンテンツを活用

昆虫の体のしくみを知るために、デジタル教科書のデジタルコンテンツを利用した。昆虫の写真を回転したり、拡大したりしながら、足の本数を数えたり、体の特徴を調べたりした。



そして、紙の教科書も利用し、一人ひとりがトンボの体や他の昆虫の体の様子を観察することができた。拡大したり、回転したりすることで、トンボの体を立体的に観察することができた。

■ 活用したソフト等

指導者用デジタル教科書

■単元名(題材名)

天気と情報(天気の変化)

■本時のねらい

天気の変化と雲の量や動きとの関係について、予想を基に、午前と午後の雲の様子を観察することを通して、雲の量が増えたり減ったりすると天気が変わることを捉えられるようにする。

■主なICT活用場面



雨天時の雲の様子を観測する場面で、カメラを活用

カメラソフトを起動させ、カメラの切り替え方を説明した。その後、場所を移動して、窓にクロームブックを固定し、定点で雨天時の雲の様子を撮影し、記録した。



その後、撮影した画像について、学習支援ソフトを使ってクラス全体で共有し、雲の様子の変異点や共通点について意見交流を行った。

カメラを使う際には、肖像権に関する注意点など、ICT機器を活用する際のルールやマナーも同時に指導する必要がある。

■活用したソフト等

学習支援ソフト、カメラ機能

■単元名(題材名)

体のつくりとはたらき

■本時のねらい

人体のつくりと働きについて、インターネットで調べたり、人体模型と比べたりすることを通して、体内には、生命活動を維持するための様々な臓器があることを理解させる。

■主なICT活用の場面



インターネットの画像検索を調べ学習に活用

人体のつくりについて、内臓を中心にどのようなつくりになっているか、ICT端末の検索機能で調べ、学習プリントにまとめた。

まとめた内容について、人体模型と見比べたり、触ったりしながら実際の人体のつくりについて確認した。

■活用したアプリ等

インターネットの画像

■ 単元名(題材名)

表現運動(フォークダンス:エイサー)

■ 本時のねらい

沖縄の伝統的な踊りであるエイサーについて、お手本の動画や自分たちの練習風景を撮影した動画により、互いの動きを見合い、表したい感じやイメージを表現する活動を通して、よりよい演舞を身に付けることができるようにする。

■ 主なICT活用場面



よりよい演舞を身に付けさせるために動画を活用

導入の場面で、お手本となる動画を学年全員で確認し、自分のパートのイメージをつかませた。度々、練習風景を撮影し、その動画を確認させ、どのようなところを改善すればよいかを考えさせ、お互いにアドバイスし合った。

動画により、自分の踊りの様子を客観的に確認させることができるので、個の演舞を効率的に改善させることができた。また、学年全体の完成度も確認できるので、子どもたちの意欲喚起にもつながった。

よりよい演舞を身に付けるために、動画の活用は有効であった。

■ 活用したソフト等

カメラ機能(動画)

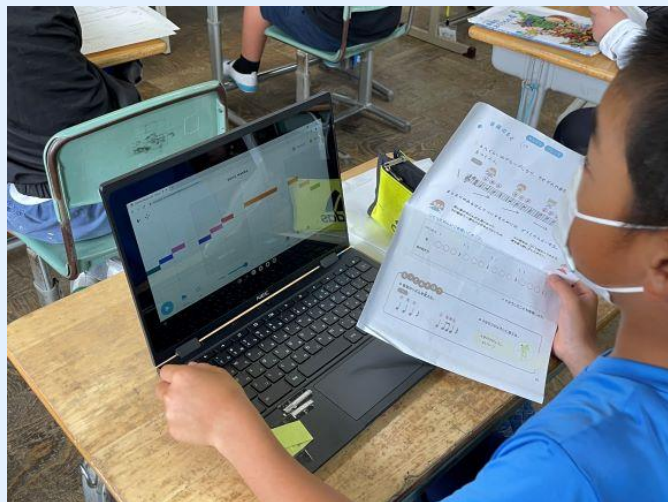
■単元名(題材名)

いろいろな歌の表現を楽しもう

■本時のねらい

ソングメーカーソフトで旋律をつくる活動を通して、音やフレーズをつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどに気付くことができるようにする。

■主なICT活用の場面



ソングメーカーソフトを音楽づくりに活用

旋律をつくる活動の場面において、ICT端末のソングメーカーソフトを活用した。

ソングメーカーソフトは、拍子などを設定し、旋律を入力すると、音階が色分けされるので、旋律を分かりやすく表現することができる。

■活用したアプリ等

ソングメーカーソフト

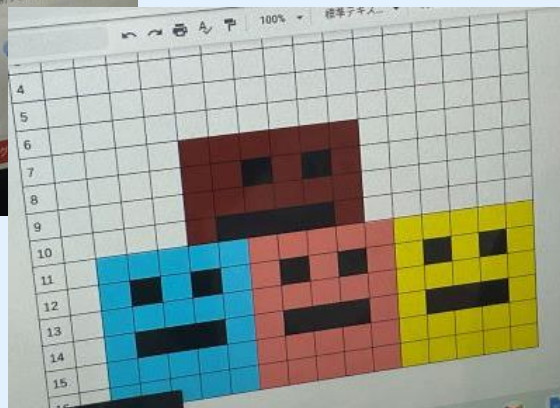
■ 単元名(題材名)

かきたいもの なあに

■ 本時のねらい

いろいろな形や色で模様を表すために、ドット図を作成する活動を通して、そこから生まれる形や色の面白さや違いに気付くことができるようにする。

■ 主なICT活用場面



文書処理ソフトでドット図を作成

いろいろな形や色で模様を表すために、クラスルームで個別に配付した文書処理ソフトに表でドット図を作成させた。一つ一つの四角(ドット)に着色することで、思い思いのドット図を作成することができるとともに、ドット図の仕組みを知ることができた。

子どもたちは、自分のお気に入りの図柄やキャラクターをインターネットで調べて、ドット図化していく活動に関心をもち、意欲的に取り組む姿が見られた。また、子ども一人ひとりが自分で、等間隔の表を作成する技能を習得することができ、デジタルコンテンツの活用は、形や色の面白さや違いに気付かせることに有効であった。

■ 活用したソフト等

文書処理ソフト